

深見地区まちづくり懇話会会議録

と き：平成30年8月27日（月）午後7時～午後8時30分

ところ：深見地区公民館

出 席：

（市 側） 市長、安心院支所長、市民サービス課長、産業建設課長、社会教育課長、
消防本部南部分署長

（事 務 局） 秘書広報課長、企画財政課長

（深見地区） 24名

進 行（秘書広報課長）

1. 市長あいさつ
2. 出席者自己紹介
3. 前回（平成28年度）出された質問等に対するその後の対応状況報告（安心院支所長）
4. 市政報告（各担当部課長）
総合計画など主要施策の進捗状況について「まちづくりレポート」に基づき説明を行う
5. 意見交換会

意見①

昨年、津房保育園が閉園して、しろばと保育園も人数が減ってきて閉園になってくるのではという危機感を持っている。存続できるような施策などを考えてもらえないか。

回答

保育園の存続については、市としては、若者定住促進などの施策を講じております。少子化や園の事情などもあり、そのような部分の園に対しての具体的な支援は今のところない状況で、地域に少しでも若い人が住んでいただけるような施策を行っていますのでご理解いただきたいと思います。

意見②

今の回答で少子化を理由に挙げていますが、どれくらい子どもが居なくなったら支援を打ち切るといえるのか。少子化を理由に支援を考えていくというのは今後深見にとってはマイナスになってくる。今、4世帯で6人の子どもを深見小学校に入れたいが空き家がないのかと言われている。その反面、子どもが少ないから保育園をなくす、小学校をなくしていくとなると、よそから来たいという人がなくなってくる。今年、内閣府の方と話す機会がありました。深見の中ではこんな問題を抱えており良い施策はないかと話したら文科省と厚労省で考えると言われたがまだ返答がない。行政から問い合わせをしてもらえないか。この地域には人を増やす為には当然小学校、保育園が必要です。少子化を理由

に返答するのはやめてほしい。

回答

宇佐市としては小学校、中学校は一切無くさないという方針のもとに取り組んでいます。子どもが減ってきていますので、児童を増やす取組みを地域の方と行っています。保育園については市が直営でしているところが4園ありまして、南院内の保育園が残念ながら今年から休園状態となっています。そこは園児が2人で、園として成り立たないので竜東保育園にご理解の上移っていただきました。津房保育園についても閉園の話があり、また、小学校児童も20数人ということで、若者定住促進住宅を3戸作ったところです。今、1戸は、入っており後2戸引き合いがある所です。そのような取組みをしながら小学校を存続させたいと思います。民間である社会福祉法人などが展開している保育園については経営者の方の判断となります。園自体への支援は国の枠組みがあるので、どの園についても平等に支援をしています。たとえば保育料については、国の基準値の7割でしており、2人目は2分の1の保育料、3人目以降は無料としており、保護者の通勤途上のあずけやすいところを選択していると思います。深見のしろばと保育園には南院内の若者定住住宅にお住まいの方が園児を二人あずけていました。院内の方からなぜ深見にあずけているのかとおしかりの電話をいただいたこともあります。園児は小学校みたいな校区の考えがないので、保護者の意向があれば難しいと思います。いずれにしても児童をいかにして過疎の周辺地域に増やしていくかという施策は、若者定住住宅などもあり、Uターンを促進させていこうと思っています。今、清永さんから6人の子どもさんがいる4世帯が空き家を探しているとお聞きしましたので、是非とも何とか繋ぎとめて深見小学校を児童数増につなげていていただきたいと思います。市もまちづくり協議会が、空き家を改修するのであれば今年から補助金の制度も作りましたので、最大限支援したいと思います。決め手となる支援策が見出しにくいところですが、出来る限りのことをしていきたいと思ます。

意見③

先ほどのしろばと保育園、深見小学校に入りたい子どもというのは、親とか子どもが指名をして入りたいということで、絶対深見なんです。小学校の先生方、しろばと保育園の先生方の教育方針がそうってきている。先ほど市長が言われた院内の子どもがしろばと保育園に来ているのは教育方針なのです。学校関係も教育方針がきちんとした学校を作ってほしい。

回答

保護者が園を選択する場合に、通勤利便性以外に保育園でなされている保育方針や教育などに着目してこの園がいいと行く場合もたくさんありますので、南院内の方もこちらを選んだということで地域の方に理解いただきました。このような問題は議会の中でも時々話題になっています。議会の中でも周辺部の園の対策を打てと言う方もいるし、自由競争にまかせるべきだと言う人もおり、議会の中でも統一した考えになっていません。しかしながら、市としては、周辺部においても民間の保育園が続くような対策を講じていきたい

と思います。

意見④

あちらもこちらも年寄りばかり。田舎の景気を良くするにはお米の値段が上がらないことには良くならない。オスプレイを迎えるくらいの荒治療をしないと田舎はやっていけない。自衛隊の施設をここに入れるとか。それはどのような話になっているのか。

回答

先週、九州防衛局に両院の議員と要望活動に行っていました。その時に日米の共同演習の中でオスプレイが参加するのではということでしたが、米軍と調整中とのことでお答えできる段階ではないとのことでした。また、九州防衛局としてオスプレイはヘリコプターとしては安全性が確保できており、佐賀空港への配備が決まったということでした。なお、佐賀空港に配備するという事は佐賀県の知事は了解していますが、有明の漁協の方々などは了承していない人もいるということで、決定通り配備されるかは現時点では不透明ということでした。オスプレイを受け入れるにはちゃんとした空港としての機能、整備機能、格納庫などが必要になりますので、日出生台演習場は空港機能がないため配備するのは物理的には困難だと思います。米軍との共同演習にオスプレイが参加するということは県知事も含めて4者協（由布、玖珠、九重、県）ですでに演習はしないでほしいと申し入れをしており、宇佐市としても歩調を合わせておりますので、そこはご理解いただきたいと思います。

意見⑤

27、8年、中津市で色々な形で協力してきたが、一昨年こちらに帰ってきた。深見に帰ってきて何かできないかと思っていたところ、グリーンツーリズムをして子どもたちに第二のふるさととしてほしいと受け入れた。子どもたちが、いつか帰って来てくれるのではと思っている。しかし、グリーンツーリズムをしていた人が減ってきている。その辺を考えていただきたい。

深見地区の一大行事が運動会と秋祭りです。運動会は雨が降ったら延期になるが、秋祭りは体育館なので雨でも行う。昨年雨が降って駐車場の確保が出来なかったので、運動場を駐車場にするというのを考えてほしい。

回答

グリーンツーリズムの受入家庭が一番多い時は約100軒ありましたが、今は60軒を下回っています。大規模な学校では安心院だけでは対応出来ない状況です。宇佐市全体で見ると、長洲や院内でもしているのので、チラシ等でも受入家庭をPRしたり個別に声かけをしていますが増えません。継続的に声かけしながら受入家庭を増やしていくよう努力してまいります。

回答

雨天時の使用については、学校側にとっては、運動場の中が車の轍でねってしまうとい

う問題があると思いますが、工夫をしながら、中に止めないなど出来ると思います。学校の施設については教育総務課が所管なので、地域に協力できるよう持ち帰って相談したいと思います。

意見⑥

深見中学校がまたできると言えば別だが、ロープをして入れない、埋ってしまって車を置く所がない。駐車場は交流ステーションと公民館と小学校の一部だけだ。今、有効活用できていないと思う。

廃校になった深見中学校のグラウンドは今、まちづくり協議会が委託を受けて草刈などの管理をしている。駐車場として利用することは許可をいただいているが、排水が悪くて一日雨が降ったら、2・3週間は使えない状態だ。一回車が入るとスリップして外に出られない。せっかく駐車場として利用したいが排水が悪くて利用できないので、そこを何とかしていただきたいということです。もう一つはまちづくり協議会が二回にわたってコンクリで駐車場を広げたが、利用状況からするとそれだけでは不足なので、そこを駐車場として利用できるような工事をしてもらえないかということです。

回答

先ほどは小学校のグラウンドと認識していましたが、お聞きすると中学校の駐車場でした。交流ステーションのいろんな活動に対して駐車場が足りないということです。交流ステーションは指定管理をしていますので、所管課に実態を伝えたいと思います。

意見⑦

エヒメアヤメを全国 13 カ所にしかないというのがわかっているのに、大分県のほうから保安林になっているから早く木を植えるように言われた。法律的に決まっており、伐採したら2年間以内に木を植えるようになっているらしい。今植えても、イノシシやシカが来てどうしようもない。木を植えるのに、1千万円くらいかかるとのこと。ほたらかすわけにはいかないが、県にはせっかくりっぱに育っているエヒメアヤメがあるのに、いかに守って木を植えるかということを考えてもらいたい。市にも力を貸していただきたい。

回答

エヒメアヤメ自生地は約3千平米であり、原野全体では何十町とあるので、仮に植林するにしても自生地は除外できるのではないかと思います。文化財に指定していますので、その事は十分に伝えて理解してもらいます。

意見⑧

少子化で保育園がなくなるのは、子どもがいないからそうなると思う。約30年前に安心院町は新規就農者を募集して小学校などが保てた。今、国営で再造成しているが、農業大学校では農業をしたいけど土地がないとかいう人もいると思うので、アピールしてほしい。

回答

農業の新規就農については農業にとっては大きな問題だと思います。農業大学校に進学している人には支援金という形で補助を出しています。今年6月から支所の中に農業のサポート機構ができています。現在、樹園地の再編をする中でぶどうや農業をしていくために一定の区画の面整備をしていったらどうかと内部的に耕地課と協議をしています。新規の就農者がくるということが前提ですが、より具体的にしていきたいと思います。

回答

安心院の新規就農者については2年前からぶどうの学校を立ち上げており、30代の二組の夫婦がそこで2年間勉強しました。最初の1年間は主に座学、後半一年は実際に友田農園で実践をして、今年から安心院でブドウ農家としてスタートしています。

今、国営緊急農地再編事業をしていますが、これから整備をしていくところは、ブドウ園農家があるところが多くなっておりますので、今あるブドウ農家の方々については面整備をするときに規模拡大をするとか、一定程度まとまった土地があれば、そこは新規就農者用の葡萄団地としてあらかじめ確保しておくとか、国と調整しているところです。ぶどうの学校のシステムを利用しながら、そこに市外県外から来ていただき圃場を準備しますので、農業大学校等にも呼びかけをしていきたいと思います。

意見⑨

大分の農業大学校だけでなく東京や全国の農大に土地がある。来てくれるようアピールして募集をしていただきたい。安心院もシャインマスカットで発展しようとしているので、出来るだけ若い人に呼びかけて長続きするようにしてほしい。

市長回答補足

エヒメアヤメの問題については、おそらく言われていることは森林法に基づいて保安林を伐採した後に新しい木を植えなさいと指導されている点と思いますが、そのエリア内に保護すべき文化財があれば保護して、そこには新たに植栽を見合してもよいと思われますので、担当課に確認してみます。